

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立東小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

豊かな心を持ち、自ら学び、実践力のある子どもを育てる。  
 とともに学ぶ子      認め合う子      たくましい子

今年度の指導の重点

基礎・基本の徹底と思考力・判断力・表現力の育成を図り、ともに学ぶ喜びと達成感を味わわせる指導に努める。  
 豊かな人間性を育み、互いの人権を大切にし、誰とでも仲良くできる子どもの育成に努める。  
 心と身体のたくましさを持った子どもの育成に努める。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国  
 国語では、A「知識」に関する問題の正答率は県平均と同程度で、B「活用」に関する問題の正答率は県平均を下回る。  
 算数では、A「知識」、B「活用」ともに正答率は県平均より高い。  
 算数Aでは、乗法と減法の混合式(100 - 20 × 4)の正答率が高い。(本校97.7%、岡山県87.8%)  
 算数Bでは、グラフの書き方について根拠をもとに記述する問題の正答率が高い。(本校79.1%、岡山県69.4%)  
 算数では、「数と計算」「数量関係」領域は県平均より高いが、「量と測定」領域に課題がある。  
 国語Aでは、故事成語(五十歩百歩)の意味と使い方に課題がある。(本校37.2%、岡山県48.4%)

県  
 国語・算数の正答率は県平均よりかなり高く、社会・理科も県平均より高い。  
 国語・算数では、すべての領域が県平均より高く、特に国語の「読むこと」領域と算数「数量関係」領域がかなり高い。  
 社会・理科ともに、「思考・判断・表現」観点は県平均よりかなり高いが社会では「資料の活用の技能」、理科では「知識・理解」観点に課題が見られる。

【学習状況調査の結果】

平日にテレビ・ビデオ等を2時間以上視聴する児童の割合は県平均より低い。  
 家庭学習は、学校の宿題をする児童の割合は県平均を上回ってきているが、復習・予習に取り組む児童の割合は 県平均を下回っている。  
 読書に平日1時間以上取り組む児童の割合は県平均を上回っている。  
 「近所の人に会ったときは、挨拶している」に肯定的な回答をした児童の割合が県平均より低い。(本校86.7% 岡山県92.4%)  
 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意と感じている割合は県平均より高い。  
 「学校に行くのは楽しい」に肯定的な回答をした児童の割合は、県平均より高い。(本校93.1% 岡山県86.7%)

成果と課題

学習形態の工夫や言語活動の充実により「自分の考えや意見を発表することが得意」「伝えたいことをうまく伝えられる」と感じている児童の割合は県平均より高いが、条件や目的に応じて書くことに課題がある。  
 理科では、学習内容によって、日常使わないような知識・用語の定着に課題が見られる。  
 社会では、「授業の内容はよくわかる」と答えた児童の割合が高く、基礎・活用問題ともできているが、資料活用に課題がある。  
 算数では、少人数指導により基礎的・基本的な学習内容の定着が増している。  
 宿題に取り組める児童は多いが、自分で計画した勉強や復習や予習に取り組める児童は少ない。  
 自分から進んで挨拶することについては、指導の継続が必要である。(「近所の方への挨拶」岡山県比較H25 -2.8% H26 -5.6%)

課題に対応した改善方法

学期ごとの漢字カテスト・計算カテストや朝学習・家庭学習などを活用し、漢字・計算のさらなる定着を図る。  
 朝学習や家庭学習の活用等を通して、現在学習している学習内容以外の既習事項の復習を行っていく。  
 文章の量や条件を指定して、自分の考えを書いてまとめる活動を様々な教科で取り入れる。  
 問題解決型の授業展開を工夫し、自分の考えを説明したり、友達の発言をつなげて説明する場づくりをし、授業研究を通して充実を図る。  
 4教科の学習到達度確認テストを計画的に活用し、特に活用問題は重点的に扱う。  
 校内で自主学習ノートについての検討を進め、自分で計画して復習や予習に取り組む習慣を作る。  
 中学校区の生徒指導の重点である「チャイム、掃除、挨拶・返事」を、家庭や地域と連携して実践的に取り組む。

取組の検証方法及び検証時期

発表や書くことに関するがんばりの児童アンケートを期日を決めて実施する。(学期ごと)  
 宿題調べを毎日行い、学期に2回ずつ評価し、個別指導を中心に取り組む。(学期に2回)  
 学習到達度確認テストの実施日を計画し、確実に実施する。(学期ごと)  
 漢字と計算の定着を確認するテストを作成し実施する。(学期ごと)  
 挨拶・返事について児童アンケートを期日を決めて実施する。(学期ごと)

達成目標(数値目標)

自分の考えを書いたり説明したりすることを難しいとする児童の割合を少なくし、県平均を上回る。  
 宿題をする児童の割合を100%に近づけ、復習してくる児童の割合が県平均を上回る。  
 全学年、学習到達度確認テストを完全に実施する。  
 漢字の書き取り定着率を80%、計算定着率を90%を目指す。  
 挨拶ができる児童の割合が県平均を上回り、「チャイム、掃除」の割合が今年度当初より上回る。